

とき

刻を描く 田淵俊夫

令和3年(2021) 4月18日(日)～5月30日(日)

主催：徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・中日新聞社・日本経済新聞社

日本画家・田淵俊夫(1941～)は、日本絵画に伝統的な装飾性と精神性を高いレベルで両立させている希有な存在です。日常の営みの中に悠久の時間を感じるという田淵の芸術の根幹は、15年にわたる愛知県立芸術大学在籍時代の活動を通じて急速に確立されていきました。日本美術院理事長となり、文化功労者に顕彰され、まさに画壇の重鎮となった今も、日本画のポテンシャルの高さに気づかせてくれる作品を生み出し続けています。

当地域と浅からぬ縁のあることから、日本美術の優品を豊富に所蔵する徳川美術館で展覧会を開催することとなりました。新作を含め、画家自薦による作品を紹介いたします。

ゆきちほうぞくうたびょうぶ

令和元年の新天皇即位にかかる「大饗の儀」で披露された、「悠紀地方風俗歌屏風」も出品します。

[凡例]

- ・前期：4月18日(日)～5月9日(日) 後期：5月11日(火)～5月30日(日)
- ・都合により出品作品が変更となる場合がございます。
- ・展示リストの順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。

No.	作品名	制作年	仕立/材質技法	寸法(縦×横cm)	所蔵者	展示期間
-----	-----	-----	---------	-----------	-----	------

水と光 Water and Light

田淵は水面にきらめく光、木漏れ日、照りつける陽光など、光とその輝きにはとりわけ敏感です。最初の本格的な作品もここから始まっており、折に触れて描き続けてきた水と光をテーマにした作品を紹介いたします。

1	水	1966	紙本着彩	159×231	大三島美術館	
2	青木ヶ原	1969	紙本着彩	162×228	愛知県美術館	前期
3	灼熱の午後	1998	四曲一隻屏風/紙本着彩	165×338	大三島美術館	前期
4	旅の窓から 刻	2002	紙本着彩	116.5×91	個人	
5	映	2002	紙本墨画	103×103	個人	前期
6	黒部心象 奥鐘山	2004	二曲一隻屏風/紙本墨画	171.4×182	個人	後期
7	光輝	2005	紙本墨画	120×120	個人	後期
8	惶	2009	四曲一隻屏風/紙本墨画	171.4×364	個人	後期

草と花 Grass and Flowers

大学院修了後に訪れた内戦の続くナイジェリアで強く印象づけられたのは、雑草のたくましい姿と命の連鎖でした。帰国後も草や花の写生をもとにした作品を描き続け、一生を通じてのテーマとなっていきます。

9	やまはぜの頃	1974	紙本着彩	116.5×72.5	大三島美術館	
10	緑風	1988	四曲一隻屏風/紙本着彩	165×338	株式会社カワイスチール	前期
11	くずの頃	1990	風炉先屏風/紙本着彩	69.4×175.6	個人	
12	柳図	2000	四曲一隻屏風/紙本着彩	171×364	個人	後期
13	爛漫	2003	四曲一隻屏風/紙本墨画	171.4×364	大三島美術館	後期
14	梅花爛漫	2005	紙本墨画	120×120	個人	

旅と刻 Travels and Time

「刻」〈とき〉は田淵の中での大きなテーマです。風景を見ても、そこで生きていた往時の人々を思い浮かべるのが田淵であり、旅先で見かけた何気ない景にも時間性を感じるのです。一瞬の景に内包される悠久の時間を描き出す作品を紹介いたします。

15	刻	1992	紙本着彩	91×72.5	個人	
16	悠悠	1993	紙本着彩	103×103	個人	前期

No.	作品名	制作年	仕立/材質技法	寸法(縦×横cm)	所蔵者	展示期間
17	旅の窓から 夕彩	1996	紙本着彩	91×116.5	個人	後期
18	対話	1998	紙本着彩	103×103	長谷川町子美術館	
19	旅の窓から 裏窓	1999	紙本着彩	116.5×91	大三島美術館	
20	時の移ろい	2003	紙本着彩	116.5×91	個人	前期
21	大地悠久 オアシスの月	2004	紙本着彩	100×72.5	個人	
22	旅の思い出 故宮	2010	紙本着彩	91×72.5	個人	後期
23	旅の思い出 紹興	2010	紙本着彩	91×72.5	個人	
24	旅の思い出 陽関	2010	紙本着彩	91×72.5	個人	前期
25	旅の思い出 長城	2010	紙本着彩	91×72.5	個人	
26	旅の思い出 大雁塔	2010	紙本着彩	72.5×60.5	個人	後期
27	旅の思い出 雲崗	2010	紙本着彩	60.5×72.5	個人	前期
28	旅の思い出 龍門	2010	紙本墨画	60.5×72.5	個人	後期
29	旅の思い出 西湖	2010	紙本墨画	91×72.5	個人	前期
30	華清池	2010	紙本墨画	162×130.5	個人	後期
31	旅の思い出 黄山	2010	紙本墨画	72.5×60.5	個人	

人の刻 Time and Human Life

田淵作品の時間性(=刻)のさらに奥にあるもの、それは人です。電線やビニールハウスなど、日本画では普通は描かれない人工物であってもそこに人の営みを認めて描き出すのが田淵です。日常の営みのなかに、人やそれを含む万物の命のきらめきを感じ取り印象的に表現された作品を紹介します。

32	清晨	1980	紙本着彩	45.5×65	個人	
33	塔	1983	紙本着彩	24×33.5	個人	前期
34	時を吹く	2000	紙本着彩	116.5×91	個人	後期
35	大和心象 法隆寺遠望	2004	紙本着彩	116.5×91	個人	
36	収穫の詩	1992	紙本着彩	53×65	個人	
37	出港	1996	六曲一隻屏風/絹本金箔地着彩	168.5×363.6	株式会社カワイスチール	
38	泊	1998	紙本着彩	91×116.5	個人	
39	時の証人 I	2000	パネル7面/紙本着彩	200×785	大三島美術館	後期
40	春もよい	1991	紙本着彩	103×103	個人	
41	大地悠久 水の大地	2004	紙本着彩	100×72.5	個人	
42	月明り	2014	四曲一隻屏風/紙本着彩	171×364	個人	前期
43	吉野	2017	四曲一隻屏風/紙本着彩	180×360	日本芸術院	後期

命と光 田淵俊夫の今 Life and Light, Tabuchi Toshio at Present

暗い心象表現に始まり、装飾的な画面を多く手がけ、水墨表現に挑戦し、さらに絵巻物にも取り組み始めています。作品の見た目は変化していますが、質的な部分の基本は、光、命、人、刻です。しかもそれらの要素が複雑に組み合わさってさらなる魅力を放つようになっていきます。最新の田淵芸術のありようと魅力を紹介します。

44	雲水	2002	襖8面/紙本墨画	177.2×800.4	大本山永平寺	
45	緑溢れる頃	2005	四曲一隻屏風/紙本墨画	171.4×364	名古屋市美術館	前期
46	めだけ	2007	四曲一隻屏風/紙本墨画	171.4×364	個人	
47	春(枝垂れ桜)	2008	襖6面/紙本墨画	189×742.8	総本山智積院	
48	鶴岡八幡宮絵巻 巻一	2011	一巻/紙本着彩	41×959	鶴岡八幡宮	
49	鶴岡八幡宮絵巻 巻二	2020	一巻/紙本着彩	42×960	鶴岡八幡宮	
50	悠紀地方風俗歌屏風	2019	六曲一双屏風/紙本着彩	各隻213.2×383.2	宮内庁	前期